

拠出金名：国際農業研究機関拠出金

国際機関等名	国際とうもろこし・小麦改良センター (英文名称・略称) International Maize and Wheat Improvement Center (CIMMYT)					
種 別	国連(事務局) 国連(基金・計画) 国連専門機関 (その他)					
所轄官庁担当局課名	農林水産省技術会議事務局国際研究課					
最近3年間の我が国支払額及び拠出率、ODA率						
	金 額				拠出率(%)	ODA率(%)
単 位	邦 貨 (千 円)	外貨1 (千ドル)	外貨2	レート	(注1)	
平成18年度	63,705	574		1\$ = 111円	(2006年) 100	100
平成17年度	61,409	574		1\$ = 107円	(2005年) 100	100
平成16年度	63,121	574		1\$ = 110円	(2004年) 100	100
拠出上位5ヶ国						
	国 名	金額 (千ドル)	率(%)	国際機関等の財政 (2006年度決算)		
1位	日本	574	100	当該年度の収入 39,359千ドル		
2位				当該年度の支出 35,560千ドル		
3位				次年度への繰越 3,799千ドル		
4位				会計検査機関名		
5位				Deloitte Touché Tohmatsu		
上記の率及び順位は2006年のもの						
当該機関に対する我が国としての評価(当該国際機関の政策に対する我が国の意見の反映度を含む)						
CIMMYTとは従来から(独)国際農林水産業研究センターの専門家が滞在し共同研究を実施しており、半乾燥地における障害抵抗性麦類の開発等の研究を実施してきた。CIMMYTは緑の革命の功績によりノーベル賞を受賞したボーローグ博士が所属する等世界の小麦研究のセンター的な役割を果たしており、本事業により小麦赤かび病に関する研究蓄積を有する我が国と連携を密にすることにより、開発途上国の持続的農業の発展に貢献すると考えている。さらに、CIMMYTは世界の小麦の遺伝子を保存しており、我が国の小麦の品種改良においても重要な役割を果たしている。						
合理化、機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価						
現地スタッフの大幅削減や研究テーマの絞り込みの他、会計方式の立て直しのため、電算化をすすめ、理事会と直結した外部監査システム等の導入など会計制度改革を実施し、大幅な経費削減等、活動の合理化及び機能強化のための取り組みが積極的に行われている。						
邦人職員数 うち幹部以上	4 人 (注2) うち 1 人	当該機関の職員数及び 邦人職員が職員全体に しめる率		638人 0.6%		
邦人職員が占めている幹部ポスト						
ポストの名称		職 員 氏 名		備 考		
所長(注3) (理事(注4))		岩永 勝 東 久雄		((独)国際農林水産業研究センターからの派 (農水産業協同組合貯金保険機構理事長)		
当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画						
現在、11名の理事(本年10月に追加で2名選出される予定)のうち、2名を邦人が占めている。また、当該機関には邦人研究者も多い。CIMMYTの主要ポストに対し、邦人の雇用に加え、様々な形態で邦人職員を派遣する等今後も積極的に邦人を送り込むための活動を行うこととしている。						

(注1) 我が国と各国とは会計年度が異なるため、拠出率については暦年(2004年～2006年)。

(注2) うち1名は我が国独立行政法人からの長期出張。

(注3) 理事会メンバーとしての任務も含む。

(注4) 理事長及び理事は職員としてカウントされていない。